

第9回日本公衆衛生 看護学会学術集会

日時：2021年1月9日（土）～10日（日）

事前参加・演題・ワークショップ登録開始：7月1日（水）

会場：Web開催

テーマ：公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして

プログラム：会長講演「公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない『社会的包摂』の実現をめざして」大木幸子（杏林大学保健学部看護学科教授）／基調講演「ハンセン病対策の歴史から保健師の活動を照射する—公衆衛生看護の責任と実践をふまえて」木村哲也（国立ハンセン病資料館学芸員）／教育講演1「私たちは思考し続けることができるか—ハンナ・アーレントから学ぶ」矢野久美子（フェリス女学院大学教授）／教育講演2「水俣（MI-NAMATA）の歴史に学ぶ公衆衛生の役割と責任」宮北隆志（熊本学園大学教授）／シンポジウム1「貧困と孤立を越え地域に居場所を紡ぐために」：「生活困窮状況にある子どもと家族への保健活動」自治体保健師、「ハウジングファーストによる路上生活からの脱却」稲葉剛（つくろい東京ファンド）、「HIV陽性者のもつ生きづらさへの支援」生島嗣（ぶれいす東京）、「居場所がない妊婦からのSOS」中島かおり（ピッコラレー）／シンポジウム2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステム構築1—療養者・家族の意思決定を支える」：「ナラティブアプローチ—物語ることの意味」宮坂道夫

（新潟大学大学院保健学研究科）、「神経難病療養者と家族の療養生活の選択を支える」倉下美和（東京都多摩府中保健所）、「ICTを活用した患者のものがたりと語りの共有による在宅医療」伊藤伸一（秋田県医師会）、「人生と生活に寄り添う支援へのICTの可能性」丹野清美（国立病院機構東京医療センター）／公衆衛生看護技術セミナー1「公衆衛生看護技術を見える化する」佐伯和子（北海道大学名誉教授）／公衆衛生看護技術セミナー2「公衆衛生看護の責任を継承する—『宮本ふみ』が残した実践者へのメッセージ」：「地域と住民によりそい協働する支援—宮本ふみさんと共に築いた活動」塚原洋子（なごみ研究所）、「宮本ふみさんが実践し、発信した保健師の技術」佐野信也（ふじみクリニック）、「先達の足跡から学ぶ保健師のまなざしと技術」東京都保健師、「『無名の語り』をとおして保健師教育課程で学生伝える保健師の技術」福本久美子（九州医療福祉大学）／特別セミナー「介護者支援による地域づくり活動と保健師への期待」牧野史子（介護者サポートネットワークセンター・アラジン）、「介護者／パネルディスカッション1「DV被害者支援と児童虐待予防との連携」加茂登志子（若松町こころとひふのクリニック）、「心理職（女性相談センター）、「保健師（子ども家庭支援センター）、「養護教諭（学校保健）」／パネルディスカッション2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステムの構築—多様な課題をもつ療養者と家族を包摂する地域包括ケアシステムの構築」：「難病療養者の生活課題と地域ケアシステム」岡田美保（東京都保健政策部疾病対策課）、「HIV陽性者の抱える多様なケアニーズのためのネットワークづくり」自治体保健師、「医療的ケア児の地域生活を支える地域ケアシステム」谷口由紀子（淑徳大学）、「障害児・障害者を支える地域ケアシステムづくり」相良裕美（多摩市健康福祉部障害福祉課）／パネルディスカッション3「風水害発生の2次被害・災害関連死を予防するため」奥田博子（国立保健医療科学院）、「松野今日子（八王子市保健所）、「防災担当者／シンポジウム3「災害とリスクコミュニケーション」／特別企画「検証！新型コロナウイルス感染症対策」／宮本ふみ企画展「宮本ふみさんのメッセージ」／ハンセン病資料館企画展「ハンセン病の歴史を学ぶ」／水俣学企画展「MI-NAMATAから学ぶ水俣学」／一般演題／ワークショップ／等

参加費：学術集会 Web参照
問い合わせ先：運営事務局
〒456-0005 名古屋市熱田区池内町3-21（株）ユピア内
☎ 052-872-8101
FAX 050-3737-7331
✉ japhn9@yupia.net
URL japhn9.yupia.net

開催情報は5月28日現在のものです。最新の情報は主催者にお問い合わせください。

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

〒113-8719
東京都文京区本郷1-28-23
☎ 03-5804-0485
✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp